

Oracle® Hyperion Financial Reporting

Administrator's Guide

リリース 11.1.2.3.00

Financial Reporting Administrator's Guide, 11.1.2.3.00

Copyright © 1989, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	5
第 1 章 EPM Workspace における Financial Reporting 管理タスク	7
MIME タイプ	7
第 2 章 注釈の検索と管理	9
注釈マネージャ	9
注釈の検索	9
注釈と関連付けられたレポートの表示	11
注釈への返答	12
注釈の削除	12
注釈に対するソースの変更	12
コンテキスト要素の変更	13
権限の変更	14
注釈の監査	14
第 3 章 プロパティ情報	15
第 4 章 ブックの HTML 出力レイアウトの管理	29
ブックの template.css ファイルの編集	30
ブックの HTML ファイルの編集	31
テンプレート・サンプル	31
用語集	35
索引	61

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

EPM Workspaceにおける Financial Reporting管理タ スク

この章の内容

MIME タイプ.....	7
---------------	---

このガイドでは、Financial Reporting の管理情報について説明します。EPM Workspace のタスクおよびアーキテクチャの詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

Web アプリケーションの配置場所が変更されました。ドキュメントのこの場所への参照はすべて次のように更新されます。変更前: MIDDLEWARE_HOME/

user_projects/epmsystem1/domains/domainName 変更後:

EPM_ORACLE_INSTANCE/domains/domainName ここで、domainName は WebLogic ドメインの名前です。Web アプリケーションに関する ODL のログの場所が変更

されました。ドキュメントの参照はすべて次のように更新されます。変更前:

MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/diagnostics/logs/ 変更後:

EPM_ORACLE_INSTANCE/domains/EPMSysystem/servers/serverName/logs ここで、serverName は WebLogic 管理対象サーバーの名前です。

注: このリリースの製品ガイドでは、サード・パーティ製品のリリース番号またはバージョン番号への参照は無視してください。システム要件については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックスを確認してください。これは http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html (Business Intelligence 内)にあります。

MIME タイプ

次に示す URL は、他の Oracle Hyperion Financial Reporting オブジェクトと同じ名前を持つスナップショット・ブックを直接開く際に使用する URL です。MIME タイプ変数とともに Latest=true または VersionNumber=1 変数を使用して、最新のオブジェクトや、オブジェクトの出力の特定バージョンを取得できます。

`http://localhost:19000/workspace/browse/get/Smartcut%20Folder/Fin_HFM?mimetype=application/hyperion-reports-snapshot_book`

次に、Latest=true を使用した例を示します。

```
http://localhost:19000/workspace/browse/get/Smartcut%20Folder/Fin_HFM?mimetype=application/hyperion-reports-snapshot_book&Latest=true
```

次に、バージョン変数を使用した例を示します:

```
http://localhost:19000/workspace/browse/get/Smartcut%20Folder/Fin_HFM?mimetype=application/hyperion-reports-snapshot_book&version=1
```

次に、Financial Reporting 関連オブジェクトに対する MIME タイプ変数の可能性のある様々な値を示します。これらの値は、Financial Reporting リポジトリにある V8_METATYPE テーブルの NAME フィールドから取得されます。Financial Reporting 関連オブジェクトを含む説明フィールドを探し、MIME タイプ変数で使用する対応する NAME フィールドを取得します。

V8_METATYPE の値:

- application/hyperion-reports-report
- application/hyperion-reports-snapshot_report
- application/hyperion-reports-book
- application/hyperion-reports-snapshot_book

この章の内容

注釈マネージャ	9
注釈の監査.....	14

注釈マネージャ

管理者は注釈サーバー上のすべての注釈にアクセスできます。

実行可能なタスク

- 注釈を検索します。9 ページの「注釈の検索」を参照してください。
- 注釈に関連付けられたレポートを表示します。11 ページの「注釈と関連付けられたレポートの表示」を参照してください。
- 注釈に返答します。12 ページの「注釈への返答」を参照してください。
- 注釈を削除します。12 ページの「注釈の削除」を参照してください。
- ソースを変更してください。12 ページの「注釈に対するソースの変更」を参照してください。
- コンテキスト要素を変更します。13 ページの「コンテキスト要素の変更」を参照してください。
- 権限を変更します。14 ページの「権限の変更」を参照してください。

注： JConsole で、設計者は、レポートが自動的にクエリーを行い、任意のレポートに対し、セル・テキスト、プランニング・ユニットの注釈、またはドキュメントの添付ファイル(あるいはそのすべて)を注釈として戻すかどうかを制御できます。詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Studio User's Guide の、セル・テキストの表示、プランニング・ユニットの注釈、および注釈の Financial Reporting のドキュメントのトピックを参照してください。JConsole でのプロパティ設定の詳細は、第3章「プロパティ情報」を参照してください。

注釈の検索

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で「検索」オプションを使用すると、指定した基準に基づいて注釈のリストを戻すことができます。

▶ 注釈を検索するには:

- 1 Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace から、「ナビゲート」、「管理」、「注釈」の順に選択します。デフォルトとして、注釈マネージャには表示される注釈はありません。
- 2 「検索」ドロップダウンから検索メソッドを選択します。
 - すべて - タイトル、作成者、カテゴリ、説明、またはコンテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - タイトル - タイトル内のテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - 作成者 - 作成者内のテキストをベースにした検索。
 - カテゴリ - カテゴリの検索。検索をクリックしてカテゴリを選択します。
 - 説明 - 説明内のテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - コンテキスト - コンテキストの検索。検索には、「コンテキスト検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここでは、データソース、要素名、およびオプションで、要素値に基づいて検索を定義できます。
 - 詳細検索 - 検索には、「詳細検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここでは、タイトル、作成者、説明、転記済日付範囲、カテゴリまたはコンテキストの組合せに基づいた検索を定義できます。
- 3 「検索」ドロップダウンから「コンテキスト」を選択します。
- 4 注釈コンテンツを表示するには、注釈をクリックします。コンテンツは、画面の下位にある注釈パネルに表示されます。

注: 以前に削除済の注釈を持つレポートは、警告(!)アイコンと一緒に表示されます。

コンテキスト検索

検索は、データ・ソース、要素名、および要素値をベースに絞りこむことができます。

▶ コンテキスト検索で検索を定義するには:

- 1 「データ・ソース」ドロップダウンで、データ・ソースを選択します。

注: 既存の注釈に対してデータ・システムが表示されます。"fr:"のデータ・ソースは注釈がオブジェクトに設定されている場合に表示されます。"fr:"の前にデータ・ソースがある場合は、注釈が特定のレポートに設定されています。

- 2 「要素名」ドロップダウンで、要素を選択します。

注： 選択した要素はリストから除去され、再選択できません。

3. 「要素値」で、その値を指定します。複数の値を指定するには、カンマ(,)で各値を分けます。

注： 複数の値の1つのみが満たされている必要があります。

4. さらに検索条件を追加するには、手順2と3を繰り返します。

注： 複数の要素名を指定する場合、各要素名の値が満たされている必要があります。

詳細検索

条件の組合せをベースに検索を絞り込むことができます。

▶ 詳細検索を使用するには:

1. 検索ドロップダウンから「詳細検索」を選択します。
2. 「詳細検索」ダイアログ・ボックスに検索条件を入力します。
 - タイトル - 注釈タイトル。
 - 作成者 - 注釈作成者。
 - 説明 - 注釈説明。
 - 転記済日付範囲 - 注釈の開始日と終了日。「開始」および「終了」ドロップダウンでカレンダー検索選択ができます。
 - カテゴリ - 注釈に関連するトピックまたは件名。「カテゴリ」ドロップダウンからカテゴリを選択します。
 - コンテキスト - 「コンテキスト検索」を使用して、データ・ソース、要素名および要素値を選択します。「検索」アイコンをクリックして、「コンテキスト検索」ダイアログ・ボックスを表示します。

注釈と関連付けられたレポートの表示

1つ以上の注釈に関連付けられているレポートとその添付ファイルを表示できます。注釈の要約行は、レポートの各注釈に表示されます。

注： レポートを表示しようとする際にエラーが発生した場合、レポートのデータ・ソースが変更された可能性があります。注釈に対してもデータ・ソースを一致させる必要があります。

注： 「名前変更」メニュー・オプションを使用して EPM Workspace でレポート名が変更された場合、どのオブジェクトレベルの注釈も名前変更されたレポートに関連付けられたままになります。ただし、その名前が Financial Reporting Studio 内の「名前を付けて保存...」オプションを使用して変更された場合は、複製されたレポートおよびオリジナルのレポートのどのオブジェクトレベルの注釈も、新しい名前のレポートにはコピーされません。

▶ レポートを表示するには:

1. 「注釈マネージャ」を開き、注釈を検索します。
2. 注釈を右クリックして、「レポート/ドキュメントの表示」を選択します。

注: エラーが発生した場合、レポートのデータ・ソースが変更されているかどうかを確認します。

3. レポートが表示されます。レポートの「注釈」アイコンは、注釈の参照の場所を示します。

注: 目のアイコンは、読取り専用のレポート/ドキュメントと関連付けられて注釈に対して表示されます。

注釈への返答

管理者は、権限の設定にかかわらず、すべての注釈に返答できます。

▶ 注釈に返答するには:

1. 「注釈マネージャ」を開き、注釈を検索します。
2. 次のいずれかのオプションを実行します:
 - 注釈を右クリックして、「返答」を選択します。
 - 注釈をダブルクリックします。
 - 注釈を強調表示して、「返答」アイコンをクリックします。
3. 「注釈の返答」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注釈の削除

管理者は、権限の設定にかかわらず、注釈を削除できます。

▶ 注釈を削除するには:

1. 「注釈マネージャ」を開き、注釈を検索します。
2. 次のいずれかのオプションを実行します:
 - 注釈を右クリックして、「削除」を選択します。
 - 注釈を強調表示して、「削除」アイコンをクリックします。
3. 「はい」をクリックして確認します。

注釈に対するソースの変更

注釈に関連付けられたソース要素をオプションで変更できます。データ・ソース要素は、タイプ、サーバー、アプリケーションおよびデータベースから構成されています。データ・ソースは、選択した注釈、またはオリジナルのデータ・ソースの基準を満たすすべての注釈に適用できます。

▶ 注釈に対するソースを変更するには:

1. 「注釈マネージャ」を開き、注釈を検索します。
2. 注釈を右クリックして、「ソースの変更」を選択します。「ソースの変更」ダイアログ・ボックスで、現在のデータ・ソースが表示されます。
3. データ・ソース・オプションを入力します。すべてのフィールドがオプションです。
 - 「データ・ソース」ドロップダウンで、新規データ・ソースを選択します。任意のデータ・ソース要素を引き続き変更します。
 - 「タイプの置換」で新規データ・ソース・タイプを入力します。
 - 「サーバーの置換」で新規サーバーを入力します。
 - 「アプリケーションの置換」で新規アプリケーションを入力します。
 - 「データベースの置換」で新規データベースを入力します。
4. 「すべての注釈に適用」で、オリジナルのデータ・ソース条件を満たすすべての注釈にソースの変更を適用するには、チェック・ボックスを選択します。強調表示した注釈にソース変更を適用するには、チェック・ボックスを選択解除します。
5. 「OK」をクリックします。確認メッセージで変更済ドキュメントの数が表示されます。変更済のドキュメントはリストで強調表示されます。

コンテキスト要素の変更

特定のデータ・ソースに関連付けられた注釈に対して次元または次元メンバーの値を変更します。

▶ 注釈に対するコンテキスト要素を変更するには:

1. 「注釈マネージャ」を開き、注釈を検索します。
2. 注釈を右クリックし、「要素の変更」を選択します。「要素の変更」ダイアログ・ボックスは、現在のデータ・ソースで表示されます。
3. オプション。「データ・ソース」ドロップダウンで、データ・ソースを選択します。
4. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **要素の変更。** このオプションを選択して、次元を変更します。次に、「置換」で、ドロップダウンから次元を選択し、「置換後の文字列」で新規次元を入力します。
 - **要素値の変更対象:** このオプションを選択して、次元およびメンバーを変更します。次に、ドロップダウン・リストから置き換える対象の次元を選択します。「置換」で新規次元を選択し、「置換後の文字列」でメンバーを入力します。
5. 「すべての注釈に適用」を選択して、要素変更をデータ・ソース条件を満たすすべての注釈に適用します。また、「すべての注釈に適用」を選択解除して、要素変更を強調表示した注釈にのみ適用します。
6. 「OK」をクリックします。確認メッセージで新規要素に変更された注釈の数が表示されます。変更済のドキュメントはリストで強調表示されます。

権限の変更

注釈権限は、ユーザー、グループまたは役割に基づいてアクセス・レベルを定義します。次の権限は、注釈リスト・パネルで設定される場合があります。

- アクセスなし - ユーザーは注釈を参照できません。
- 表示 - ユーザーは注釈を表示できます。
- 変更 - ユーザーは注釈に返答できますが、削除できません。
- フル・コントロール - ユーザーは、注釈への権限を表示、返答、削除および設定できます。

▶ 権限ダイアログにアクセスするには:

1. 注釈を右クリックして、「権限」を選択します。
2. 「権限」ダイアログ・ボックスで、権限を適用するユーザー、グループまたは役割を強調表示して、右向き矢印をクリックし、「選択したユーザー、グループ、役割」パネルに移動します。
3. 「アクセス」ドロップダウンから権限をクリックして、「OK」をクリックします。権限の設定の詳細は、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Administrator's Guide を参照してください。

注釈の監査

作成日や最終変更日などの注釈に関する情報は、一般的な監査およびコンプライアンス・レポートには不可欠です。Financial Reporting レポートに関連する注釈の注釈情報は、Financial Reporting サーバー上で AnnotationAudit.log ファイルに記録されます。このファイルには、注釈ごとに次が含まれます:

- 実行されたアクション: 作成、応答または削除された注釈
- 注釈のタイトル
- 注釈に関連するデータ・ソース
- 注釈のコンテキスト
- 注釈を追加、変更または削除したユーザーのユーザー ID
- 作成、変更または削除の日時
- 注釈に関連するレポートの名前およびパス
- 注釈に関連するオブジェクト・タイプ(グリッド、チャート、イメージ、テキスト・ボックス)

注: 注釈権限の変更は記録されません。

AnnotationAudit.log の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Troubleshooting Guide の EPM システム・ログの使用に関する項を参照してください。

3

プロパティ情報

JConsole は、Financial Reporting、および Financial Reporting とともに実行されるアプリケーションの様々なプロパティを複数のサーバーに渡って定義および管理するために使用される Java Monitoring and Management Console です。JConsole の実行可能ファイル(Jconsole.exe)は、Java Development Kit (JDK)の bin ディレクトリ (<install dir>/jdk)にあります。MBeans タブで属性を選択すると、次のプロパティおよび値を表示、設定できます:

Oracle Hyperion Financial Reporting の構成プロパティは、Hyperion Home\product\financialreporting\bin ディレクトリで FRConfig.cmd (Microsoft Windows 以外のプラットフォームの場合は FRConfig.sh)を使用して実行できます。コマンドをダブルクリックして JConsole を起動して接続し、Oracle Hyperion Financial Reporting の MBean 値を変更します。また、次のことに注意してください。

- コマンド・ファイルは Web アプリケーション・サーバー上でのみ使用可能です。
- Web アプリケーションが実行中である必要はありません。
- 変更を加えたら、すべてのサービスを再起動します。

印刷サーバーおよびスケジューラ・サーバーの変更後に、すべてのサービスを再起動する必要はありません。

表 1

名前	デフォルト値	説明
AllowCellTextAsAnnotations	false	これは、注釈関連の設定です。Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Hyperion Planning のセル・テキストを注釈として表示できます。レポート設計者は、セル・テキストを指定レポートの注釈として表示するように設定できます。true の場合、レポート設計者は適切なセル・テキストを注釈として表示するためのプロパティを設定できます。
AllowDocumentAttachmentAsAnnotations	false	これは、注釈関連の設定です。Oracle Hyperion Essbase の LRO、Oracle Hyperion Financial Management のセル・ドキュメント、および Oracle Hyperion Planning の添付ドキュメントを注釈として表示できます。レポート設計者は、これらを指定のレポートの注釈として表示するように設定できます。true の場合、レポート設計者は適切な添付ドキュメントを注釈として表示するためのプロパティを設定できます。

名前	デフォルト値	説明
AllowPlanningUnitAnnotationsAsAnnotations	false	これは、注釈関連の設定です。Oracle Hyperion Planning のプランニング・ユニットの注釈(PUA)を注釈として表示できます。このオプションにより、レポート・デザイナーで、PUA を指定レポートの注釈として表示できるかどうかを制御されます。true の場合、適切な PUA を注釈として表示するためのプロパティをレポート・デザイナーで設定できます。
AttachedFileMaxSize		
BaseFRWebApp		BaseFRWebApp
BaseWebApp		これは、Workspace Web アプリケーションへの URL リンクを示します。
BaseWebContext	Workspace	これは、Workspace Web アプリケーションのコンテキストを示します
BatchBurstingThreads	10	バーストしているバッチを処理するために、特定のスケジュール済ジョブで起動される並列スレッド数。
BookTOCPrintTemplate	BookTOCPrintTemplate=\${oracle.instance}/bin/toc-template.rtf	これは、BI Publisher の F0 プロセッサを使用する印刷エンジンに使用されます。このプロパティで、新規印刷エンジンでブックの目次を生成する際に使用される RTF テンプレート・ファイルの場所を指定します。
CacheADMConnectionBasedOnSession	true	このプロパティを使用して ADM 接続のキャッシュを有効化します(Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning および Oracle Hyperion Financial Management への接続用)。
CachePDFForSnapshots	false	<p>スケジューラによって作成されるすべてのスナップショットとスナップショット・ブックで、PDF を生成し、Workspace にキャッシュするかどうかを指定します。これにより、Web での参照者によるスナップショットの初回 PDF 取得時間が向上します。</p> <p>注： この指定には、EPM Workspace に追加の領域が必要です。</p> <p>注： この設定にかかわらず、PDF フォーマットでのスナップショットまたはスナップショット・ブックの最初の要求の後に、PDF は Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace にキャッシュされます。デフォルトは false です。有効な値は true または false(大文字と小文字を区別)です。</p>
Categories		注釈の場合、注釈カテゴリを指定します。

名前	デフォルト値	説明
ChangeExtensions		このプロパティを使用すると、スケジュール済ジョブの実行結果として送信される電子メールに添付されるファイルの拡張子を変更できます。これは、企業によっては、電子メールの添付ファイルとして許可されていない拡張子があるためです。拡張子は、指定した値に変更されます。 各プロパティはカンマで区切り、Prop1=value1, prop2=value2 と指定します
ChartPlottingIgnores		チャートで#MISSING、#ERROR および#ZERO の値を処理する方法を制御します。可能性のある値(error、missing および zero)が任意の順序に並べられたカンマ区切りのリストであることが必要です。大文字と小文字は区別されませんが、空のままにすると、これらの値がすべてゼロとして処理されます
ClassicPrintServerPrinterMask	HRPrinter#	プリンタ名のマスクを指定します(#は印刷サーバーによって動的に置換されます)。インストール時にプリンタ HRPrinter1-5 がデフォルトで作成されます。別の名前で作成するには、HRCreatPrinters.ini を編集し、financialreporting\bin の HRCreatPrinters.exe を実行します。
ClassicPrintServerPrinterPool	5	PDF 出力に使用できるプリンタ数を指定します。デフォルトでは、インストール時に 5 つのプリンタが作成されます。 HRCreatPrinters.ini を編集し、financialreporting\bin の HRCreatPrinters.exe を実行することにより追加のプリンタを作成できます。
CleanUpThreadDelay	300000	MinimumConnectionInactiveTime クリーンアップ・スレッドが実行される頻度(ミリ秒単位)を指定します。このデフォルトでは、非アクティブな接続を 300000 ミリ秒(5分)ごとにチェックします。
ClientSystemProperties		構文は、FolderLabel1=FolderPath1, FolderLabel2=FolderPath2 のようになります。 各プロパティはカンマで区切り、Prop1=value1, prop2=value2 と指定します
DbConnRetryInterval		注釈で、データベース・ラックがあり、フェイルオーバーが発生した場合の、データベースへの正常な試行を待機する時間(ミリ秒単位)です。
DbMaxConnectAttempts		注釈で、データベース・ラックがあり、フェイルオーバーが発生した場合の、接続の再試行を行う回数です。
DiscManMappingToolWSDL		読取り専用。Oracle Hyperion Disclosure Management の WSDL パスを識別します。

名前	デフォルト値	説明
DiscManSessionWSDL		読取り専用。Oracle Hyperion Disclosure Management の WSDL パスを識別します。
DisplayDatasourceInFlatList	false	このプロパティを使用すると、特定のレポートまたはブックで使用されているすべてのデータ・ソースを「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログのフラット・リストに表示できます。
DisplayFilterBySecurity	True	このプロパティを使用すると、Web での FilterBySecurity の設定の変更をユーザーに許可できます。false に設定した場合、ユーザーは FilterBySecurity オプションを変更できず、アクセス権がないメンバーを表示できません。true に設定した場合、Web 上で FilterBySecurity 設定を変更でき、アクセス権がないメンバーを表示できます。デフォルトは true です。
EnableSMTPServerAuthentication	False	このプロパティを使用すると、スケジューラからの電子メールの送信を SMTP サーバーで認証できます。
EntityCurrency	USD=\$,Euro=€	Financial Management エンティティの通貨。レポート上で<<HFMcurrency()>>テキスト関数によって表示されるエンティティ通貨コードのかわりに使用する値を指定できます。たとえば、HFMcurrency 関数によって USD が戻される場合、記号\$を表示するように指定できます。 注： 非 ASCII 文字は、unicode でエンコードされた文字列(\u20ac)として指定する必要があります。 各プロパティはカンマで区切り、Prop1=value1, prop2=value2 と指定します
EssbaseJAPIServer	localhost	3 層 APS モードを使用して Essbase にアクセスする場合、APS サーバー・マシン名を指定します。
EssbaseUseMDX	true	Analytic Services(Essbase Analytic または Enterprise Analytic、あるいはその両方)にアクセスするためのクエリ言語として MDX を指定します。
ExportExcelUseRawNumbers	false	スケールせずに Microsoft Excel にエクスポートします。
ExportFolders		HTML としてブックをエクスポートおよびデプロイする際のフォルダの場所を指定します。 構文は、FolderLabel1=FolderPath1, FolderLabel2=FolderPath2 のようになります。 例: export1=e:\exportfolder1,export2=e:\exportfolder2

名前	デフォルト値	説明
FollowedUrlPrefixList		セミコロンで区切られた URL のリストです。この URL から HTML コンテンツがフェッチされ、予算台帳に含まれます(参照されている場合)。
GsmServers		注釈の基礎サーバーを指定します。
HRWebHtmlLocation		Financial Reporting Web アプリケーションによって一時対話型 Web ファイルが一時的に保管される場所を指定します。EPM のデフォルトの場所は、 <code>\${EPM_ORACLE_INSTANCE}/products/financialreporting/temp/</code> 、 <code>"java.lang.String"</code> です
HRWebKeepAliveInterval	1	Web アプリケーション・サーバーが、ブラウザ・クライアントに返答を送信する頻度を分単位で指定します。これは、タイムアウトを強制するプロキシ・サーバーを http トラフィックが通過する場合に便利です。デフォルトは 1 分です。
HRWebStaticHTMLLocation		Financial Reporting Web アプリケーションによって静的 HTML ファイルが一時的に保管される場所を指定します。EPM のデフォルトの場所は、 <code>\${EPM_ORACLE_INSTANCE}/products/financialreporting/temp/</code> 、 <code>"java.lang.String"</code> です
HTTPProxyHost		Financial Reporting ブックに必要な HTTP 接続のためのプロキシ・サーバーのホスト名。
HTTPProxyPort		Financial Reporting ブックに必要な HTTP 接続のためのプロキシ・サーバーのポート番号。
HasEntityCurrencyMappings	false	Financial Management エンティティの通貨。エンティティ通貨のマッピングを定義する場合、HasEntityCurrencyMappings を true に設定します。
HssLocation		読取り専用。EPM モードのみ。Hyperion Shared Services Server の場所を示します。
HtmlFormat	0	スケジューラによって生成される HTML のフォーマットを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 0 - イメージのサブカテゴリがある、一般的な HTML。 ● 1 - イメージが埋め込まれた mhtml フォーマット。(Internet Explorer でのみ機能、ファイル拡張子は.mht。) ● 2 - イメージが埋め込まれた Mozilla 互換の単一ファイル(Netscape、Mozilla および Firefox でのみ機能)。
InstalledDir	<code>\${home.reports.lib}</code>	scheduler.xml で Financial Reporting スケジューラ・サーバーの状態を保持する場所を指定します。デフォルトは、 <code>\${home.reports.lib}</code> です。

名前	デフォルト値	説明
MaxEmailAttachmentSize	0	電子メールの最大添付ファイル・サイズを指定します。0以下の値は、添付ファイルのサイズに制限がないことを意味します。値はKB単位で指定する必要があります。次の例では、最大添付ファイル・サイズを128KBに設定しています: AttachmentSize = 128。デフォルトは0です。
MaxExpandAllCount		「すべて展開」をクリックした際に、「メンバー選択」に表示する最大アイテム数です。
MaxImportFileSize	0	Financial Reporting にインポートされるファイルの最大サイズを指定します。デフォルトでは、インポート・ファイル・サイズに制限はありません。 たとえば、MaxImportFileSize を 1000 に指定した場合、インポート・ファイル・サイズは 1MB までに制限されます。つまり、.ZIP ファイルを含む、1 MB を超えるファイルのインポートは失敗します。この制限は.zip ファイル内のファイルにも適用されます。.zip ファイルのサイズが 1MB 未満でも、.zip 内の圧縮済ファイルの実際のサイズが 1MB を超えている場合、インポートは失敗します。
MaxPortUsage	0	Windows システムで使用されるポート数の上限を指定します。この上限を超えると、レポートのクエリーが、その一部が解放されるまでキューに入れられます。値に 0 を指定した場合、制限はありません
MaxSearchResults	50	メンバー選択の検索クエリーの結果として戻される最大メンバー数を制限します。
MaximumCalculationIterations	5	レポート・サーバーの計算設定。すべてのグリッドとセルの計算の最大反復回数を指定します。グリッドの計算プロセスでは、参照の優先順位により、セルを複数回評価する場合があります。これはほとんどの場合、他のグリッドへの参照があるグリッドで発生します。循環参照がなく、計算セルで Error が戻された場合、反復回数を増やすと問題が解決する場合があります。デフォルトは 5 です。 注： 回数の値を大きくしすぎると、グリッドの実行パフォーマンスが低下することがあるので注意してください。
MemberSelectionDoInitialSearch	false	この値を true に設定すると、メンバー選択により、以前に選択されたメンバーが検索され、そのメンバーが位置する場所にツリーが適切に展開されます。
MemberSelectionRowsPerPage	20	メンバー選択の検索クエリーの結果として戻される、1 ページ当たりの行数。MBeans でこのプロパティに使用することが推奨されるのは、5、10、20、50、100、250 および 500 の標準値のみです。

名前	デフォルト値	説明
MinimumConnectionInactiveTime	300000	接続マネージャの設定。接続マネージャは、レポート・サーバー、Web アプリケーションおよび Financial Reporting Studio のサブコンポーネントです。データソース接続の存続時間は MinimumConnectionInactiveTime によって決まります。MinimumConnectionInactiveTime クリーンアップ・スレッドによって非アクティブなデータソース接続が切断される最小時間(ミリ秒単位)を指定します。デフォルトでは、300000 ミリ秒間(5 分間)非アクティブであった接続が切断されます。
MissingValuesAreZeroInFormulasInHFM	True	レポート・サーバーの計算の設定。Financial Management データソースで、式の計算内で欠落している値をゼロとして処理するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 値が <code>false</code> の場合、式の計算内で欠落している値はゼロと同じではないことを意味します ● 値が <code>true</code> の場合、式の計算内で欠落している値はゼロとして処理されることを意味します 注： このプロパティは、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースでのみ有効です
NumberDecimalPlacesForZero	2	ゼロ(0)とみなされるために必要な小数点以下桁数を指定します。デフォルトは 2 です。
NumberDecimalPlacesForZeroInSuppression	5	NumDecimalPlacesForZeroInSuppression は、「ゼロ」に対して条件付き抑制および条件付きフォーマットを使用する場合にのみ使用されます。NumDecimalPlacesForZeroInSuppression の値は、条件付き抑制および条件付きフォーマットにおける数値がゼロの場合、小数点以下何桁が評価されるかを特定します。「0」の値に対して条件付き抑制または条件付きフォーマットを設定するとき、その値が絶対値ゼロ(0)と比較されます。このプロパティのデフォルト値は 5 です。たとえば、NumDecimalPlacesForZeroInSuppression のデフォルトのプロパティ値 5 を使用する場合、値 0.00001 はゼロとみなされず、0.000001 はゼロとみなされます。
OBIEEServer		ブックの統合用に OBIEE サーバーを追加するときに使用される場所。
PassCSSTokenToHssEssDriver		
PDFRootDir	#{EPM_ORACLE_INSTANCE}/products/financialreporting/temp/PDFOutput/	Financial Reporting 印刷サーバーによって PDF ファイルが一時的に保管される場所を指定します。

名前	デフォルト値	説明
PUASeparator	(デフォルトは空白)	プランニング・ユニットの注釈の区切り記号。 このエントリは、プランニング・ユニットの注釈の区切りに使用されます。次に、PUASeparator エントリの例を2つ示します。1つ目の例は、アンダースコアを区切り記号に使用しています。\ <uxxxx 16="" td="" u+xxxx="" unicode="" の="" の「文字コード表」ユーティリティを開きます。確認する文字をクリックすると、unicode="" のフォーマットで画面の左下に表示されます。puaseparator="" は、実際には、全角ダッシュの="" を指定しない場合のデフォルトは全角ダッシュです。<="" ツール」の順に選択し、windows="" フォーマットの="" 値が="" 文字を指定することもできます。2つ目の例は、次のとおりです。\<u2014="" 進数です。文字に対応する="" 進数を簡単に入手するには、「アクセサリ」、「システム=""> </uxxxx>
PassCSSTokenToHssEssDriver	True	基礎となるデータソースに CSS トークンを渡すかどうかを指定します。現在の設定に問題を起こす特定の理由がないかぎり、この設定を変更しないでください。プロパティ・ファイルのエントリがない場合、トークンはユーザー検証のためにデータソースに渡されます。
PrintServerResultCacheTime	6000000	完了したレポート、スナップショット、ブックおよびスナップショット・ブックを削除するまで印刷サーバー(PDF の生成または印刷用)で保持する時間(ミリ秒単位)を指定します(収集されていない、または孤立した結果が削除されるまでの時間)。デフォルトでは、結果の実行時間が 6000000 ミリ秒(1 時間)を超えると削除されます。
PrintServerResultsCleanupThreadDelay	36000000	PrintServerResultCacheTime クリーンアップ・スレッドを実行する頻度(ミリ秒単位)を指定します。この値を低く設定しすぎると、実行要求が終了となり削除される場合があります。デフォルトでは、未収集の結果は 36000000 ミリ秒(10 時間)ごとにチェックされます。
PrintServers		レポート・サーバーで使用できる印刷サーバー(フォーマットは、サーバー:ポート)のカンマで区切られたリスト。例: printserver1:10999、printserver2:10999。
PrintingMaxThreads	10	一時点で PDF ファイルの印刷/生成用に作成されるスレッドの数の上限を指定します。デフォルトは、ホスト・マシンの CPU の数に基づきます。CPU ごとに 5 スレッドが許可されています。たとえば、2 つの CPU を搭載したシステムのデフォルトは 10 スレッドです。0 を指定した場合、作成されるスレッドの数は制限されません
RemoteAdmServer	null	データ・ソースをアクセスするリモート・サーバーを識別します。

名前	デフォルト値	説明
RMIClientSocketFactory		RMI に使用されるクライアント側ソケット・ファクトリの実装を上書きするオプションを提供します。デフォルトでは、RMI 用カスタム・クライアント・ソケット・ファクトリが使用されます。
RMIPortRangeLower		Financial Reporting で、RMI 通信に使用できる開始ポート番号を指定します。ファイアウォールを使用する場合、このプロパティを設定することをお勧めします。
RMIPortRangeUpper		Financial Reporting で、RMI 通信に使用できる上位のポート番号を指定します。ファイアウォールを使用して構成する場合、RMIPortRangeLower と RMIPortRangeUpper を指定して、RMI で使用可能なポート数を制限できます。
RMI ServerSocketFactory	JDK に同梱されているデフォルトのファクトリの実装が使用されません。	RMI に使用されるサーバー側ソケット・ファクトリの実装を上書きするオプションを提供します。
RegisteredRelatedContentURLs	null	デフォルトの関連コンテンツ・プロバイダです。 値のフォーマットは次のとおりです： <code>Product/server name/url</code> ここで、 <code>Product</code> は製品名、 <code>server name</code> はサーバーの場所、 <code>url</code> はプロバイダの URL です。
RelatedContentAliases	(デフォルトは空の文字列)	製品で使用される関連コンテンツのサーバーおよびポートの別名です。これは、移行時に非常に役立ちます。
RelatedContentURLs	(デフォルトは空の文字列)	関連コンテンツを指定するための URL です。
RelativeRelatedContentServers	(デフォルトは空の文字列)	相対的な方法で関連コンテンツ・サーバーを指定できます。SSL オフロードを実行する場合に役立ちます。
ReportServerMaxThreads	5	あらゆる時点において、レポートの実行用に作成されるスレッドの数の上限を指定します。デフォルトは、ホスト・マシンの CPU の数に基づき、1CPU 当たり 5 スレッドです。 <ul style="list-style-type: none"> ● 1CPU = 5 スレッド ● 2CPU = 10 スレッド ● 3CPU = 15 スレッド ● 4 以上の CPU = 20 スレッド ● 0 を指定した場合、作成されるスレッドの数は制限されません。

名前	デフォルト値	説明
ReportServerReportCacheTime	72000000	完了したレポート、スナップショット、ブック、スナップショット・ブックを削除するまでレポート・サーバー内で保持する時間をミリ秒単位で指定します。(未収集または孤立した結果が削除されるまでの期間。たとえば、ユーザーがレポートを要求した後、レポートの実行が終了する前に Web ブラウザを閉じた場合、結果は孤立する場合があります。)デフォルトでは、結果の実行時間が 72000000 ミリ秒(20 時間)を超えると削除されます。
ReportServerReportCleanUpThreadDelay	36000000	ReportServerReportCacheTime クリーンアップ・スレッドを実行する頻度(ミリ秒単位)を指定します。この値を低く設定しすぎると、実行要求が終了となり削除される場合があります。デフォルトでは、未収集の結果は 36000000 ミリ秒(10 時間)ごとにチェックされます。
ReportServerWaitCount		「スケジューラ」で、レポート・サーバーへの接続試行数を指定します。
ReportServerWaitDelay		スケジューラがレポート・サーバーへの再接続を試行する前に待機する時間を秒数で指定します。
RowsPerPage		注釈マネージャのプリファレンス。1 ページ当たりの表示行数を指定します。
SMTPMailServer		読取り専用。スケジューラからの電子メールの送信に使用される SMTP メール・サーバー。
SMTPPort		スケジューラからの電子メールの送信に使用される SMTP メール・サーバーのポート。
SMTPServerPassword		SMTP サーバーにアクセスするためのパスワード(パスワードで保護されている場合)。
SMTPServerUserID		SMTP サーバーにアクセスするためのユーザー ID(保護されている場合)。
SSASImpersonate	false	SSAS データソースにアクセスする Windows ユーザーの偽装を許可します。true を指定した場合、現在ログインしている Windows ユーザーとして SSAS データソースに接続します。false を指定した場合、渡されたログオン情報が使用されます。 注： Financial Reporting のこのリリースでは、SSAS データ・ソースは使用しません。

名前	デフォルト値	説明
ScheduledBatchCacheTime	0	Financial Reporting スケジューラ・サーバーの構成の設定。完了したバッチ結果を保持する時間をミリ秒単位で指定します。たとえば、5日間経過した結果を削除するには、432000000ミリ秒を指定します。このクリーンアップ・オプションを有効にするには、ScheduledBatchCleanUpThreadDelay プロパティに、0より大きい値を設定する必要があります。保留中のバッチは削除されません。デフォルトは0ミリ秒であり、バッチ結果が削除されないことを意味します。
ScheduledBatchCleanUpThreadDelay	0	削除するバッチ結果をスケジューラがチェックする頻度(ミリ秒)を指定します。たとえば、24時間ごとにチェックする場合は、値に864000000ミリ秒を指定します。デフォルトは0ミリ秒であり、スケジューラはバッチ結果を削除しないことを意味します。
SchedulerServer		構成済のスケジューラ・サーバー名を指定します
SchedulerTemplateLocation	#{EPM_ORACLE_INSTANCE}/products/financialreporting/data/SchedulerTemplate	Financial Reporting スケジューラ・サーバーの構成の設定。Financial Reporting スケジューラ・サーバーによってテンプレート・ファイルが取得される場所を指定します。デフォルトは次のとおりです
SchedulerOutputLocation	SchedulerOutputLocation, PropType.NORMAL,"#{EPM_ORACLE_INSTANCE}/FinancialReporting/data/SchedulerOutput/","java.lang.String"	バッチ実行用の結果ファイルのコンテキストを保管する場所
SortUsesJavaCollator	True	ソートにデフォルトの Java Collator を使用しないように選択できます。
StellentServer		Oracle Universal Content Management サーバー名を指定します。これは、Oracle Universal Content Management のコンテンツが外部コンテンツとして Financial Reporting,ブックに追加される場合に役立ちます。
StudioInstallerLocation		読取り専用。Studio インストーラの場所。HRStudioRetrieve.jsp が呼び出される際、これは Studio MSI (Windows インストーラ)が提供される場所になります。
SystemMode		読取り専用。Fusion アプリケーションか Fusion 以外のアプリケーションかを示します。

名前	デフォルト値	説明
TextPrintTemplate		テキスト・ファイル印刷のテンプレートとして使用する Microsoft Word ドキュメントへの完全なパスを指定します。これは、レポート内のセル・ドキュメントおよびブック内の外部コンテンツによって使用されます。ファイルのデフォルトの場所とファイル名は、C:/Hyperion/products/financialreporting/install/scripts/../../bin/FR_TextTemplate.doc です。
UrlLaunchMode	post,yahoo.com google.com	例外を判別するために使用される正規表現です。値には2つのコンポーネントが含まれます。最初のコンポーネントは起動 URL に使用されるタイプです。2番目のコンポーネントは URL を起動する方法に対する例外を識別するための正規表現です。 関連コンテンツ・リンクおよび例外に対する HTTP リクエストのタイプを指定します。最初の値はデフォルトで、「post」または「get」を指定する必要があります。2番目の値はそのリクエストのタイプを使用しない例外を指定する必要があります。 注： Google または Yahoo の場合を除き、デフォルトは「post」です。
UseEssbaseEDS	true	ネイティブ ADM ドライバではなく Analytic Provider Services (APS) ドライバを使用するには、UseEssbaseEDS=true を指定してください。APS リモート・モードを使用している場合、EssbaseEDSServer プロパティのコメントを解除し、使用している APS サーバー名をその値として指定してください。 UseEssbaseEDS=false EssbaseEDSServer= EssbaseEDSDriver=HssEdsDriver
ZipEmbedded	True	このオプションは、スケジュール済ジョブの出力タイプとして「HTML にエクスポート」オプションが選択されている場合にファイルの圧縮を許可します。
com.hyperion.pbm.general.ColorTheme	null	製品全体のデフォルトの配色を指定します。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.Units	inches	ルーラー単位のデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は次のいずれかを指定できます： ● インチ ● センチメートル
com.hyperion.reporting.HPrefs.colorcontrast	false	高コントラスト・カラー・モードはアクセシビリティ・モードを高めるために使用できます。このオプションは、スクリーン・リーダーがサポートされているプラットフォームでのみサポートされています。

名前	デフォルト値	説明
com.hyperion.reporting.HRPrefs.country	US	ユーザーの国のデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。サポートされている国の任意の ISO 国コードを指定できます。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.dateformat	null	製品全体のデフォルトのデータ・フォーマットを指定します。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.decimalsymbol	,	小数点のデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は,(カンマ)または_(アンダースコア)です
com.hyperion.reporting.HRPrefs.digitgroup	,	桁のグループ化のデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は,(カンマ)または_(アンダースコア)です。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.footnote_param	「タイトル」、「詳細」、「カテゴリ」、「作成者」、「日付」、「説明」、「添付ファイル」および「返答:すべて」	注釈のタイトル、カテゴリ、作成者、説明、添付ファイルなどのデフォルトの印刷オプションを指定します。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.filter_by_security	false	プランニング・セキュリティに基づいてメンバー選択をフィルタ処理できます。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.gcolor	#000000	グリッドの線の色デフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値のフォーマットは#RRGGBB で、RR は赤を表す 16 進値、GG は緑を表す 16 進値、BB は HTML 仕様で指定された青です。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.glsnap	true	グリッドの線のスナップのデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は true または false のいずれかです。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.glspaceing	null	Oracle Hyperion Financial Reporting の Studio で、バックグラウンドのガイドライン間のデフォルトの間隔を指定します。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.glstyle	dot	グリッドの線のスタイルのデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は line または dot のいずれかです。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.HelpUserTrainingUri		読取り専用。Workspace での管理設定で、UPK (User Productivity Kit)を使用できます。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.language	EN	ユーザーの言語のデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。サポートされている言語の任意の ISO 言語コードを指定できます。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.locationuserpov	above	ユーザー POV バーの場所のデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は、above または viewpane のいずれかです。

名前	デフォルト値	説明
com.hyperion.reporting.HRPrefs.merge_equal_prompts	true	Web ユーザー・プリファレンスの「同じタイプのプロンプトをマージする」を明示的に設定していないユーザーのデフォルト動作を指定します。値 true は、同じタイプのプロンプトがマージされることを意味し、値 false は、同じタイプのプロンプトがマージされないことを意味します。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.office_format	Office2002	MS Office のバージョンのデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は、Office2000 または Office2002 のいずれかです。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.previewuserpov	false	「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログを表示するかどうかのデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は true または false です。値 true を指定すると、「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログが表示され、false を指定した場合は表示されません。
com.hyperion.reporting.HRPrefs.viewtype	html	表示タイプのデフォルト・ユーザー・プリファレンス値を指定します。値は html または pdf です
BaseConfigServlet	/browse/configURL	メイン構成のサーブレット・パスの場所を指定します。

4

ブックのHTML出力レイアウトの管理

この章の内容

ブックの <code>template.css</code> ファイルの編集	30
ブックの HTML ファイルの編集	31
テンプレート・サンプル	31

ブックを静的な HTML Web サイトに出力する際は、コンテンツの修正、フォーマットの変更、およびイメージの追加を行って、ブックの HTML 出力レイアウトをカスタマイズできます。変更後、ブックを実行すると新規レイアウトを反映できます。ブックをカスタマイズするためのファイルは...statiticbook\lib ディレクトリにあり、`SchedulerTemplateLocation` プロパティを使用して変更できます。

変更可能なファイルは、lib ディレクトリの次のフォルダにあります:

- `css` - このフォルダを使用して、次の領域のレイアウトおよびルック・アンド・フィールを設定します。
 - `template.css` - これは、HTML 出力を生成するために使用するブック・レイアウトで使用されるデフォルト・テンプレートです。
 - `template2.css` - これは、`template.css` のかわりに使用できる予約テンプレートです。
 - `template3.css` - これは、`template.css` のかわりに使用できる予約テンプレートです。

注: テンプレートの詳細は、30 ページの「ブックの `template.css` ファイルの編集」を参照してください。

- `highlight.css` - このファイルを使用して、ハイライトされる検索結果の表示形式を定義します。
- `print.css` - このファイルを使用して、印刷される出力のコンテンツとフォーマットを定義します。
- `psbtreview.css` - このファイルを使用して、目次のテキストの表示形式(色など)を定義します。
- `html` - このフォルダを使用して、ブック・レイアウトのいくつかの領域のコンテンツを変更します。31 ページの「ブックの HTML ファイルの編集」を参照してください
- `img` - このフォルダを使用して、ブック・レイアウトの.png イメージを追加または置換します。

注： ユーザーの会社のイメージを反映するには、このフォルダの `banner.png` を変更する必要があります。

- 次の3つの追加フォルダは変更しないでください:
 - `jquery` - 目次およびその他の JavaScript タスクのライブラリが含まれています。
 - `js` - 内部 JavaScript ファイルが含まれています。

ブックの `template.css` ファイルの編集

HTML ブック・レイアウトでは、`template.css`、`template2.css` および `template3.css` の3つの基本テンプレート・ファイルが提供されています。テンプレート・ファイルには、ユーザーの会社の要件に合わせて変更可能なデフォルト・フォーマットが含まれています。

`template.css` ファイルは、生成された HTML 出力で使用されるデフォルト・ファイルです。`template2.css` または `template3.css` ファイルを生成された HTML レイアウトで使用するには、ファイル名を `template.css` に変更する必要があります。たとえば、`template2.css` をデフォルトとして使用するには、まず元の `template.css` ファイルの名前を `template4` などに変更して無効にします。次に、`template2.css` の名前を `template.css` に変更します。

`template.css` のレイアウトは、`template2.css` および `template3.css` と異なります。`template.css` の目次(`content_left_toc`)は左側にあり、`template2` および `template3` の目次は左側と右側にあります。`template2` および `template3` では、目次を左側または右側、あるいは両方に設定できます。

`template.css` ファイルには、次の領域のフォーマット設定が含まれます(3つのテンプレートのイメージについては、[31 ページの「テンプレート・サンプル」](#)を参照)。

- `body` のフォーマット - 背景の色およびテキストの配置を指定します。
- `container` のスタイル - `container` 領域の設定
- `Header_logo` のスタイル - `header_log` 領域の設定。
- `Header_menu` のスタイル - `menu` 領域の設定。

注： この領域はユーザーの会社のロゴに変更する必要があります。

- フッターのスタイル - `Footer` 領域の設定。

注： ユーザーの会社のプリファレンスを反映するには、この領域を変更する必要があります。

- 列のレイアウト - 列の枠線の設定。
- 左の列 - `content_left` 領域の設定。
- 右の列 - `content_right` 領域の設定
- 中央の列 - `content_center` 領域の設定。

- 右の列 - ブレッド・クラム - content_center_breadcrumbs 領域の設定。
- ドキュメントのコンテンツ - content_center_container および content_center_single 領域の設定。
- ページ切替え関連の FR - 変更しないでください。

ブックの HTML ファイルの編集

ブック・テンプレートの様々な領域のコンテンツを変更するには HTML ディレクトリを使用します。テンプレート領域の説明については、[31 ページの「テンプレート・サンプル」](#)を参照してください。変更できる領域は次のとおりです:

- content_left - このファイルを使用して、content_left 領域にコンテンツを追加します。
- content_right - このファイルを使用して、content_right 領域にコンテンツを追加します。

注: この領域は、元の template.css ファイルでは使用できませんが、追加は可能です。元の template2.css および template3.css ファイルでは使用可能です。

- footer - このファイルを使用して、フッター・コンテンツを変更します。

注: ユーザーの会社のプリファレンスを反映するには、フッター・コンテンツを変更する必要があります。

- header - このファイルを使用してヘッダー・コンテンツを追加します。

注: ロゴをユーザーの会社のロゴと置き換える必要があります。

- menu - このファイルを使用して、追加コンテンツを追加または削除します。

テンプレート・サンプル

次のテンプレートは、デフォルト・テンプレート(template.css)の様々な領域を示しています。

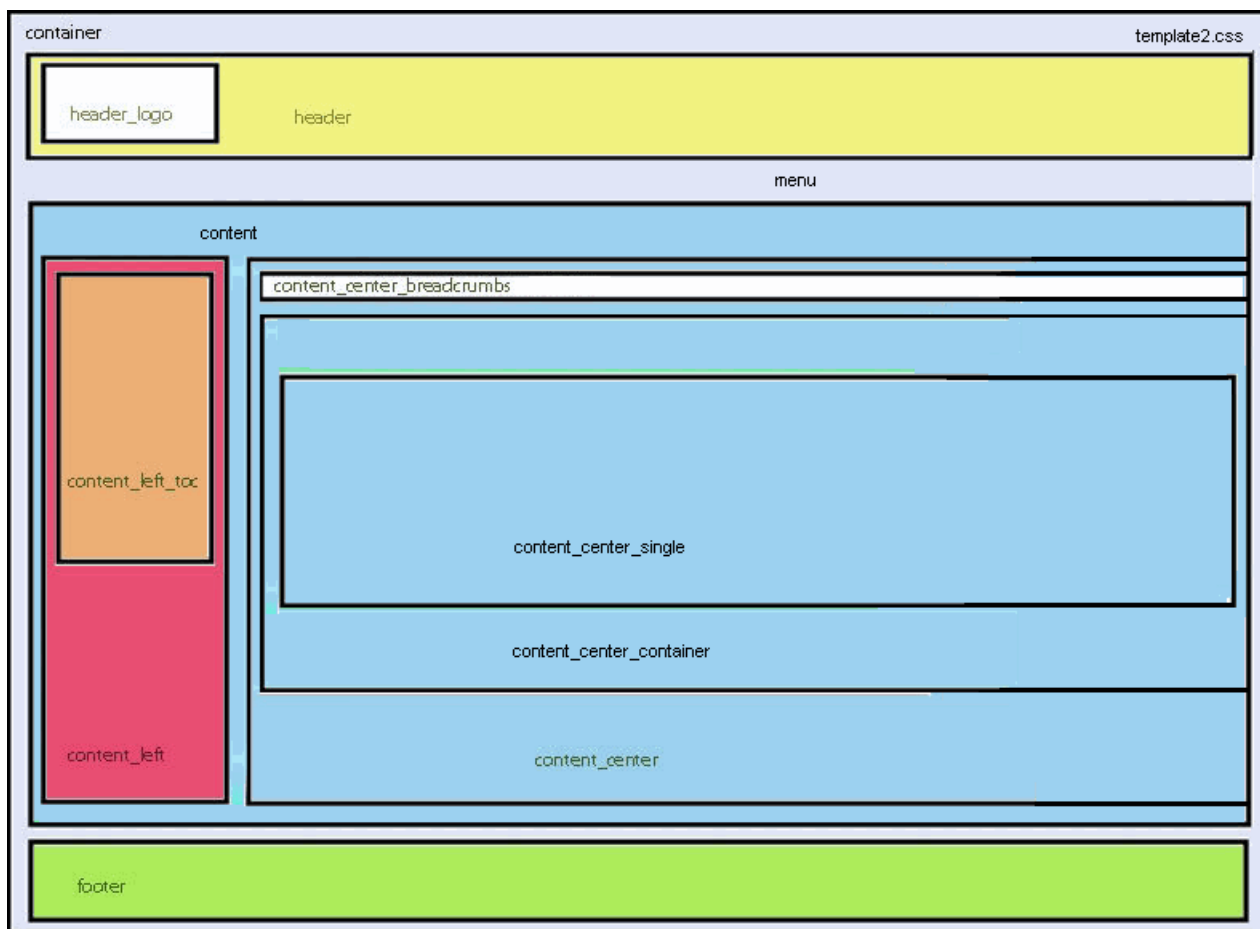
template.css



template.css には、content_right および content_left パネルが表示されます(それぞれ content_right.html および content_left.html で指定されている場合)。

template2.css

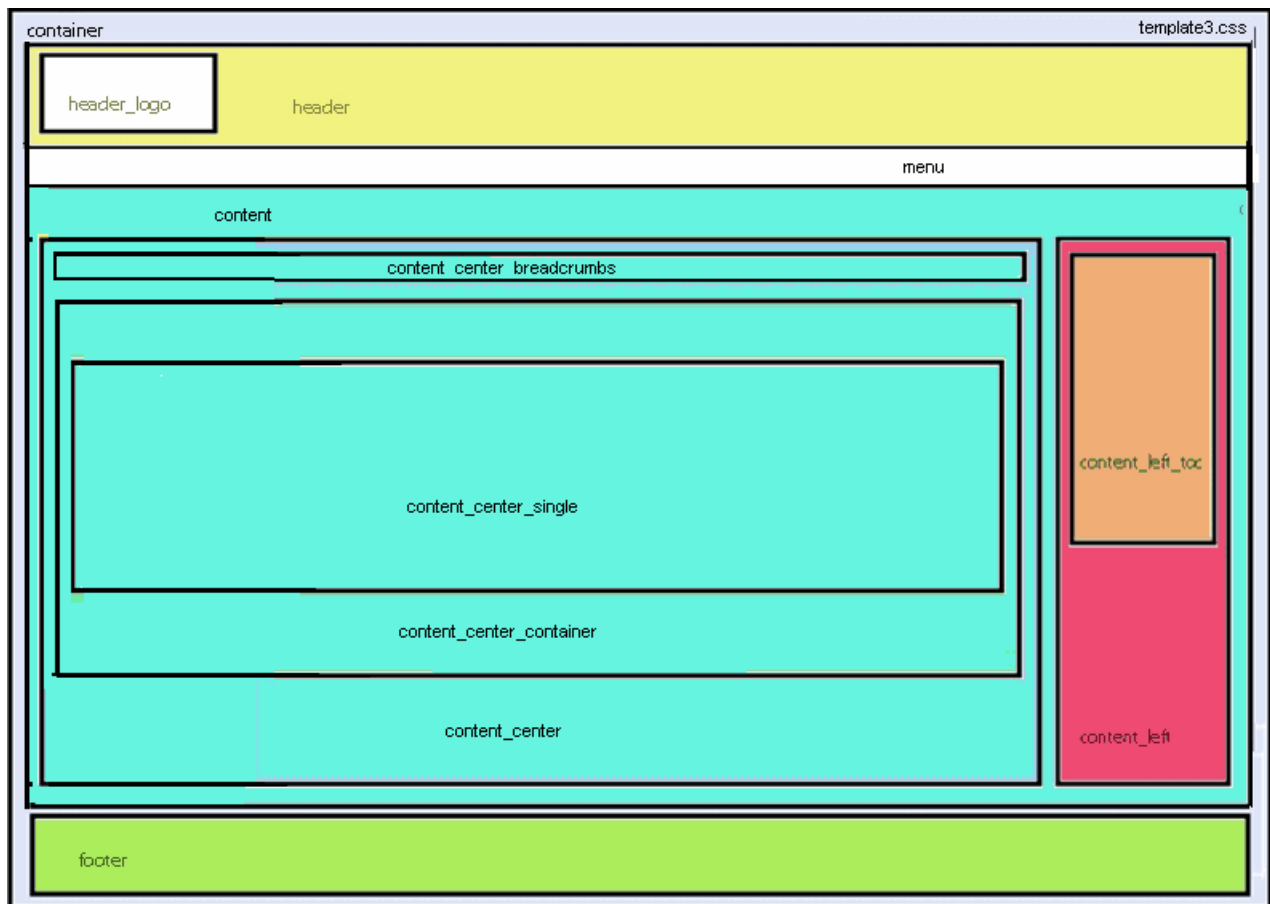
次のテンプレート・サンプルは、template2.css の様々な領域を示しています。



template2.css では、content_right パネルが削除されています。content_center パネルが右端まで拡張されています。

template3.css

次のテンプレート・サンプルは、template3.css の様々な領域を示しています。



template3.css では、`content_left` パネルが `content_right` のかわりに使用されています。 `content_center` パネルが左端まで拡張されています。

用語集

! 「感嘆符」を参照してください。

#MISSING 「欠落データ」を参照してください。

2 パス 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbase のプロパティです。2 パスのメンバーは、2 番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

Calculation Manager Planning および **Financial Management** のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証、管理するために使用できる、Enterprise Performance Management Architect (EPMA) のモジュールの 1 つです。

CDF 「カスタム定義関数」を参照してください。

CDM 「カスタム定義マクロ」を参照してください。

Cookie Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

EPM Oracle インスタンス EPM System 製品のアクティブな動的コンポーネント(実行時に変更できるコンポーネント)を含むディレクトリです。EPM System コンフィグレータで構成中に、EPM Oracle インスタンス・ディレクトリの場所を定義します。

EPM Oracle ホーム EPM System 製品に必要なファイルを含むミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。EPM Oracle ホームの場所は、EPM System インストーラを使用したインストール中に指定されます。

essbase.cfg Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

EssCell 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase スプレッドシート・アドインのセルに入力する関数です。

ESSCMD Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

ESSLANG テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。「エンコード方式」も参照してください。

ESSMSH 「MaxL シェル」を参照してください。

Extensible Markup Language (XML) データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

Extract-Transform-Load (ETL) データを抽出してアプリケーションに移行するための、データソース固有のプログラムです。

GUI グラフィカル・ユーザー・インタフェースです。

ID 外部認証におけるユーザーまたはグループの固有の ID です。

Interactive Reporting 接続ファイル(.oce) データベース API(ODBC、SQL*Net など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続(.oce)ファイルを作成して発行します。

Java アプリケーション・サーバー・クラスタ Java 仮想マシン(JVM)のアクティブ-アクティブ・アプリケーション・サーバー・クラスタです。

Java データベース接続(JDBC) Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL データベースのアクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

JSP Java Server Pages です。

KeyContacts ガジェット Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供するガジェットです。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別の KeyContacts ガジェットを使用できます。「ガジェット」も参照してください。

LRO 「リンク・レポート・オブジェクト」を参照してください。

MaxL Essbase で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。「MaxL DDL」、「MaxL DML」、および「MaxL シェル」も参照してください。

MaxL DDL Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義言語です。

MaxL DML Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作言語です。

MaxL DML の計算済メンバー 分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL Perl モジュール Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

MaxL シェル MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX: essmsh、Windows: essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

MaxL スクリプト・エディタ 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

MDX (多次元式) 多次元準拠データベースでのクエリーや計算に使用される言語です。

MIME タイプ アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより判別されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

NULL 値 データのない値です。NULL 値はゼロに等しくありません。

ODBC Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(database management system: DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスの方法です。

「OK」ステータス 集計ステータスの1つです。エンティティが集計済であり、階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

OLAP メタデータ・カタログ Essbase Integration Services における、リレーショナル・データ・ソースから引き出されたデータの性質、ソース、場所および種別について説明するメタデータを含むリレーショナル・データベースです。

OLAP モデル Essbase Integration Services で、リレーショナル・データベースのテーブルおよび列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。この OLAP モデルを使用して、多次元データベースの構造を生成できます。「オンライン分析プロセス (OLAP)」も参照してください。

Open Database Connectivity (ODBC) 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

Oracle ホーム 特定の製品に必要なインストール・ファイルが含まれるディレクトリで、ミドルウェア・ホームのディレクトリ構造内にあります。「ミドルウェア・ホーム」も参照してください。

POV (視点) 行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDM での POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

Production Reporting 「SQR Production Reporting」を参照してください。

PVA 「期別価額メソッド」を参照してください。

root メンバー 次元分岐における最上位のメンバーです。

Shared Services レジストリ Shared Services リポジトリの一部で、ほとんどの EPM System 製品の EPM System 配置情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を管理します。

SPF ファイル SQR Production Reporting サーバーで作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

SQL スプレッドシート SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

SQR Production Reporting データ・アクセス、データ操作、および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

Structured Query Language リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

TCP/IP 「Transmission Control Protocol/Internet Protocol」を参照してください。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの保管が可能です。

Unicode モードのアプリケーション 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

WebLogic Server ホーム WebLogic Server インスタンスに必要なインストール・ファイルが含まれるミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。WebLogic Server ホームは Oracle ホームと同等です。

WITH セクション MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。WITH セクションでセット(カスタム・メンバー)を一度定義すると、クエリー中に複数回参照できます。

Workspace ページ 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

ws.conf Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

wsconf_platform UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

XML 「Extensible Markup Language」を参照してください。

XOLAP アウトラインのメンバーのみを保管し、クエリー時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

Y 軸スケール 「調査」セクションに表示される、チャートの Y 軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意の Y 軸スケールを使用すること、すべての詳細チャートに同一の Y 軸スケールを使用すること、または列内のすべてのチャートに同一の Y 軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通の Y 軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

Zero Administration サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツール。

アウトライン 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的関係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

アウトライン同期 パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

アクセサ データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

アクセス権 リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

アクティビティ・レベルの承認 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

アクティブ-アクティブ高可用性システム すべての使用可能メンバーが要求に対応でき、アイドル状態のメンバーがないシステムです。通常、アクティブ-アクティブ・システムは、アクティブ-パッシブ・システムより豊富な拡張性オプションを備えています。「アクティブ-パッシブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ-パッシブ高可用性システム 常に要求に対応するアクティブ・メンバーと、アクティブ・メンバーに障害が発生した場合にのみアクティブ化されるパッシブ・メンバーがあるシステムです。「アクティブ-アクティブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ・サービス 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

アセンブリ EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

値次元 入力値、換算値、および連結の詳細を定義する次元。

アダプタ ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

アップグレード ソフトウェアの新規リリースをデプロイし、前のデプロイメントから新規のデプロイメントにアプリケーション、データおよびプロビジョニング情報を移動するプロセスです。

宛先 1)Business Rules では、計算済の値が格納されるデータベース・ブロックです。2)Profitability and Cost Management では、割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

アドホック・レポート エンド・ユーザーが動的に作成するオンライン分析クエリーです。

アプリケーション 1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。2)必要とされる特定の分析またはレポート(あるいはその両方)に対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

アプリケーション移行ユーティリティ アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンド・ライン・ユーティリティです。

アプリケーション管理者 アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

アプリケーション・サーバー・クラスタ 複数のアプリケーション・サーバーが緩やかに結合したグループです。これらのアプリケーション・サーバーは、信頼性と拡張性を実現するために連携して同時に実行し、ユーザーには1つのアプリケーション・サーバーのように見えます。「垂直アプリケーション・クラスタ」および「水平アプリケーション・クラスタ」も参照してください。

アプリケーションの通貨 アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

アペンダ 宛先を意味する Log4j の用語です。

安全率 より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。

暗黙の共有 メンバーが1つ以上の子を持ち、連結されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。

アーティファクト 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

移行監査レポート 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

移行スナップショット アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

移行定義ファイル(.mdf) アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

移行ログ アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

依存エンティティ 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

一意でないメンバー名 「重複メンバー名」を参照してください。

一意のメンバー名 データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

一意メンバーのアウトライン 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

イメージ・ブックマーク Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

因果関係マップ 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかが示されているマップです。因果関係マップのタブは、各戦略マップに自動的に作成されます。

インストール・アセンブリ EPM System インストーラへのプラグインを実行する製品インストール・ファイルです。

インデックス 1)疎データの組合せによりブロック・ストレージ・データベースでデータを取得する方法です。2)インデックス・ファイルを指します。

インデックス・キャッシュ インデックス・ページを含むバッファです。

インデックス項目 疎次元の交差へのポイントです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

インデックス・ファイル ブロック・ストレージのデータ取得情報を保管する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

インデックス・ページ インデックス・ファイルの低位区分です。インデックス・ページには、データ・ブロックを指すポイントが含まれます。

イントロスペクション データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。「スクレーピング」と対比してください。

インポート・フォーマット FDM で、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

疎次元 ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。「密次元」と対比してください。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。

「影響」ステータス 親エンティティに連結する子エンティティの変更を示すステータスです。

エンコード方式 テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングする方法の 1 つです。各エンコード方式には UTF--8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。「コード・ページ」および「ロケール」も参照してください。

エンタープライズ・ビュー Administration Services の機能の 1 つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbase アーティファクトを直接操作できます。

エンティティ 部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

エージェント アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

お気に入りガジェット Reporting and Analysis ドキュメントへのリンクと URL を含むガジェットです。「ガジェット」も参照してください。

親 直接レポートする依存エンティティを 1 つ以上含むエンティティです。親は少なくとも 1 つのノードに関連しているエンティティであるため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。

親の調整 親に関連して子に転記される仕訳エントリです。

オンライン分析プロセス(OLAP) 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行うことができる多次元環境です。集計された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAP システムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。

会社間消去 「消去」を参照してください。

会社間照合 アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の連結合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。

会社間照合レポート 会社間勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

拡張リレーショナル・アクセス リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合です。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベースの要約レベルのデータにマッピングされます。

確認レベル プロセス管理の確認ステータス・インディケータの 1 つです。「開始していません」、「第 1 パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

加重 スコアカードのアイテムに割り当てられた値です。スコアボード全体のスコアの計算において、そのアイテムの相対的な重要性を示します。スコアカードのすべてのアイテムの加重を総計すると 100% になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

カスケード メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

カスタム・カレンダー システム管理者が作成したカレンダーです。

カスタム次元 ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

カスタム定義関数(CDF) Java で開発され、MaxL により Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。「カスタム定義マクロ」も参照してください。

カスタム定義マクロ(CDM) Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。「カスタム定義関数」も参照してください。

カスタム・プロパティ ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

カスタム・レポート 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

仮想アプリケーション・サーバー・クラスタ 同じマシン上に複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

カタログ・ペイン アクティブ・セクションで使用可能な要素のリストが表示される領域です。クエリーがアクティブ・セクションの場合はデータベース・テーブルのリストが表示されます。ピボットがアクティブ・セクションの場合は結果列のリストが表示されます。ダッシュボードがアクティブ・セクションの場合は埋込み可能セクション、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールのリストが表示されます。

カテゴリ データ編成に使用するグループです(月など)。

株式ベータ 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が 1% 変動するのに伴って株の収益が通常 1.2% 変動するのであれば、その株のベータ値は 1.2 です。

カレンダー ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3、および Q4 から構成されます。

為替レート・タイプ 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、履歴レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。

換算 「通貨換算」を参照してください。

換算レート 「為替レート」を参照してください。

勘定科目の種別 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の動作を決定するプロパティです。勘定科目の種別オプションには、支出、収益、資産、負債、および資本が含まれます。

勘定科目の消去 連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

勘定科目のブロック 連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。

関数 Data Relationship Management では、パラメータを受け取り、動的値を戻す導出プロパティ式の構文要素です。

感嘆符(!) 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

管理対象サーバー 内蔵された Java 仮想マシン(Java Virtual Machine: JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

関連勘定科目 メイン勘定科目に関連し、同一のメイン勘定科目番号にグループ化される勘定科目です。勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

外部でトリガーされるイベント ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。

外部認証 アプリケーションの外部に保管されたユーザー情報を使用して、Oracle EPM System 製品にログオンすることを指します。ユーザー・アカウントは EPM System により管理されますが、パスワード管理やユーザー認証は、Oracle Internet Directory (OID)や Microsoft Active Directory (MSAD)などの企業ディレクトリを使用して、外部サービスにより実行されます。

ガジェット EPM のコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysis のコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

期別価額メソッド(PVA) 通貨換算方法の1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

基本エンティティ 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

基本次元 1つまたは複数の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product 次元が Flavors 属性次元の基本次元となります。

基本通貨 日常の業務トランザクションが行われる通貨です。

期末 チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

キャッシュ データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

キューブ 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

キューブ・スキーマ Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

キューブ配置 Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

兄弟 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

共有 Workspace ページ 専用のシステム・フォルダに格納され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

共有ストレージ フェイルオーバー・クラスタのすべてのノードで使用できる必要があるデータを含む一連のディスクです。共有ディスクとも呼ばれます。

共有ディスク 「共有ストレージ」を参照してください。

共有メンバー ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

クエリー・ガバナー Essbase Integration Server のパラメータまたは Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

行の抑制 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付ける設定です。

クラスタ 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

クラスタ・サービス システムとしてクラスタ・メンバーの操作を管理するソフトウェアです。クラスタ・サービスを使用すると、一連のリソースやサービスを定義して、クラスタ・メンバー間でのハートビート・メカニズムを監視し、これらのリソースやサービスをできるだけ効率よくかつ透過的に別のクラスタ・メンバーに移動できます。

クラスタ内部接続 ハートビート情報に関するノード障害を検出するためにハードウェア・クラスタにより使用されるプライベート・リンクです。

クラスタ棒グラフ カテゴリを横に並べたグラフです。垂直棒グラフでのみ使用されます。

繰返し 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパス。

クリーン・ブロック 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックです。

クロス集計レポート テーブル・フォーマットでデータの分類および集計を行うレポートです。テーブルのセルには、交差するカテゴリに合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上げが表示されます。

グリッドの POV 行、列、またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート設計者はグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。次元に含まれるグリッドの値が1つのとき、その次元は行、列、またはページではなくグリッドの POV に配置します。

グループ 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

グローバル・レポート・コマンド 別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、ファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

計算結果アイテム データベースやキューブに物理的に保管される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ・アイテム、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

計算スクリプト データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

計算済勘定科目 変更できない計算式がある勘定科目です。これらの計算式は、作成しているモデルの勘定科目の整合性を保つために固定されています。たとえば、当期純利益、計算済勘定科目の計算式は戦略的財務に組み込まれており、過去実績または予測の期間で変更はできません。

系統データ 割当ての計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての割当てステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。

系列 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューアでグラフィカルに表示できます。「トレーサビリティ」も参照してください。

結合 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく2つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

欠落データ(#MISSING) ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

権限 データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

検証 アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。

検証ルール データの整合性を強化するために FDM で使用されるルールです。たとえば、FDM では、検証ルールによって、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後に、特定の条件が満たされていることが保証されます。

限界税率 税引き後の負債コストの計算に使用されるレートです。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

現地通貨 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

原点 2つの軸の交差です。

子 データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。

高可用性 障害が発生した場合でもアプリケーションが継続してサービスを提供できるようにするシステム属性です。これは、フォルト・トレラント・ハードウェアおよびサーバー・クラスタを使用して、シングル・ポイント障害をなくすことで実現されます。1つのサーバーで障害が発生すると、処理要求は別のサーバーにルーティングされます。

高機能計算 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算方法です。

交差 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位であり、ワークシートのセルでもあります。

構造ビュー トピックをコンポーネントのデータ・アイテムの単純なリストとして表示します。

構築方法 データベース・アウトラインを変更するために使用する方法の一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築方法を選択します。

個人の反復タイム・イベント 再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

個人用変数 複雑なメンバー選択の特定の選択ステートメントです。

個人用ページ リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

コミット・アクセス Essbase のトランザクションの処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時トランザクションは書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

コンテキスト変数 タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

コンテンツ リポジトリに保管されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

コンテンツ・ブラウザ コンテンツを参照して選択し、Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

コントリビューション 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

コード・ページ 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。「エンコード方式」も参照してください。

差異 プラン値と実績値などの2つの値の差。

サイクル・スルー データベース内で複数パスを実行し、同時に計算します。

再構成 URL ユーザーが Workspace にログオンしているときに、サーブレット構成設定を動的に再ロードするために使用される URL です。

再構築 データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

最新 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を抽出するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

最上位メンバー 次元のアウトラインで、階層ツリーが一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

サイレント応答ファイル インストール管理者が提供する必要のあるデータを提供するファイル。応答ファイルを使用すると、ユーザーの操作や入力なしで EPM System インストーラまたは EPM System コンフィグレータを実行できます。

サブ勘定科目のナンバリング 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

サブスクライブ アイテムまたはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、アイテムまたはフォルダにフラグを付けることを指します。

サポート詳細 セルの値を算出した計算および仮定です。

三角換算法 第3の共通通貨を使用して、ある通貨から別の通貨に残高を変換する手法です。たとえば、残高をデンマークのクローネからイギリスのポンドに変換するには、クローネの残高をユーロに変換してから、ユーロからポンドに変換します。

算出ステータス 一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。

算術演算子 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、*、/、%など)。

算術データ・ロード データベース内の値に対して演算(たとえば各値に10を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

サンプリング エンティティの特性を判別するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。「メタデータのサンプリング」も参照してください。

サービス ビジネス・アイテムを取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認証など)。

サーブレット Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

残高勘定科目 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

式 Data Relationship Management では、プロパティ値を動的に計算するための導出プロパティにより使用されるビジネス・ロジックです。

式の保存 データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

資産勘定科目 勘定科目の1つです。会社の資産の値を保管します。

支出勘定科目 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

市場リスク割増額 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

システム抽出 データをアプリケーション・メタデータから ASCII ファイルに変換する機能。

子孫 データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

シナリオ データを分類するための次元です。たとえば、実績、予算、予測1、予測2などです。

支配比率 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

収益勘定科目 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

集計ルール 階層のノードを集計する際に実行されるルールです。親の残高が正しく集計されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、このルール内で制御できます。

修飾名 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([市場].[東].[州].[ニューヨーク]、[市場].[東].[都市].[ニューヨーク]など)。

集約 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび保管するプロセスです。または集約プロセスによって保管された結果を指します。

集約関数 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

集約スクリプト 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

集約ストレージ・データベース 潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、保管されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

集約制約 集約要求ライン・アイテムや集約メタピック・アイテムに設定する制約です。

集約セル 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む 4 つのセルに展開されます。

集約ビュー 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

出資比率 あるエンティティが、その親によって所有されている割合。

手動ステージ ユーザーが操作する必要があるステージです。

障害回復 地理的に離れたスタンバイ・サイトにアプリケーションおよびデータ用のリカバリ戦略を用意することで、本番サイトでの自然停電または予期せぬ停電から保護する機能です。

消去 組織内のエンティティ間でのトランザクションをゼロに設定(消去)するプロセスです。

消去済勘定科目 連結ファイルに表示されない勘定科目です。

詳細チャート 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

使用済ブロック 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

シリアル計算 デフォルトの計算設定です。1 つの計算を複数のタスクに分割して、一度に 1 つのタスクを計算します。

仕訳(JE) シナリオと期間の勘定科目残高の借方または貸方に計上する調整の集合です。

シングル・サインオン(SSO) 一度ログオンすると、再度認証を求められずに複数のアプリケーションにアクセスできる機能です。

シングル・ポイント障害 障害が発生した場合にユーザーが通常の機能にアクセスできなくなるシステムのコンポーネントです。

信頼できるユーザー 認証されたユーザーです。

時間次元 データが示す期間(会計期間、暦時間など)です。

軸 1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

次元 ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元には多くの場合四半期、月などの期間の単位ごとのメンバーが含まれます。

次元間の無関係性 次元が他の次元と交差しない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差しない次元からはアクセスできないため、交差しない次元は無関係となります。

次元構築 Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

次元構築のルール データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

次元性 MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、次に示すセットの場合は、含まれている 2 つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります: {(West, Feb), (East, Mar)}

次元タイプ 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

次元タブ 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

次元テーブル 1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです。2)Essbase 統合サービスでは、Essbase の潜在的な次元を定義する1つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAPモデルのコンテナを指します。

事前計算 ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

持続性 Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

実行時プロンプト ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

実績の頻度 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

自動逆仕訳 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

自動ステージ ユーザーの操作を必要としないステージです。たとえば、データ・ロードです。

従業員 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません。たとえば、コンサルタントでもかまいません。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

重複する別名 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

重複メンバーのアウトライン 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

重複メンバー名 データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。

重要事業領域(CBA) 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

重要成功要因(CSF) 戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1つ以上のアクションに対する親となります。

上位レベル・ブロック 少なくとも1つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

冗長データ 重複データ・ブロックです。Essbase で更新されたブロックがコミットされるまで、トランザクションの間保持されます。

ジョブ 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含めることができます。

ジョブの出力 ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

水平のアプリケーション・サーバー・クラスタ 別々のマシンに複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

数値属性範囲 基本次元メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に 0-20、21-40、41-60、および 61-80 という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

スキーマ リレーショナル・データベースにおける、データおよびデータ間の関連を表す論理モデル。

スクレーピング データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。「イントロスペクション」と対比してください。

スケール スケールによって値の表示方法を決定します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

スコア ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。

スコアカード 目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づき、進行状況が確認されます。

スコープ Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です。たとえば、セキュリティ設定の影響を受けるデータ領域です。通常、スコープには 3 レベルの粒度があり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは、次に示すように上位から下位の順になります: システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、または Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベース。「持続性」も参照してください。

ステージ 1)通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の 1 つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の 2 つのタイプがあります。2)Profitability では、組織内の割当てプロセスの手順を表すモデルの論理部分です。

ステージ・アクション 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

ステージ後割当て 割当てモデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。

ステージ内割当て 同じステージ内のオブジェクトに対する財務フローの割当てです。

ステージング・テーブル 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステージング領域 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステータス・バー 画面下部のバーで、コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。

スナップショット 特定の時点の読取り専用データです。

スポットライト 選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。

スマート・カット URL フォームのリポジトリ・アイテムへのリンクです。

スマート・タグ Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから利用可能な定義済アクションに関連付けられています。Oracle EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

スーパーバイザ サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

ズームチャート チャートを拡大することにより詳細情報を表示するためのツールです。ズームチャートを使用すると、チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

精度 数値に表示される小数点以下の桁数です。

製品 Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

セカンダリ・メジャー プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーには業績レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

責任マップ 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

セキュリティ・エージェント Web アクセス管理プロバイダ(Oracle Access Manager、Oracle Single Sign-On または CA SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

セキュリティ・プラットフォーム Oracle EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

世代 データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

設計レポート コンポーネント・ライブラリを使用してカスタム・レポートを作成するための Web Analysis Studio のインタフェースです。

接続ファイル 「Interactive Reporting 接続ファイル (.oce)」を参照してください。

セル 1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

セル・ノート Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

選択リスト レポート設計者がレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用する次元の POV を変更できます。

戦略マップ 上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組入れる方法を示します。

戦略目標(SO) 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の1つのパースペクティブに関連付けられ、1つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目標の親になります。

税金の初期残高 Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエンタリは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

関連サブクエリー 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

相互割当て 財務フローの割当ての一種です。宛先の1つとしてソースが含まれます。

組織 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

祖先 その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

属性 次元メンバーの特性です。たとえば、従業員次元メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

属性計算次元 メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの1月の平均売上の値を計算できます。

属性次元 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

属性タイプ 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

属性の関連付け データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

属性レポート 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。「基本次元」も参照してください。

貸借一致の仕訳 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

対称型マルチプロセッシング(SMP) マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

対称トポロジ 本番サイトおよびスタンバイ・サイトの層全体で同一である Oracle Fusion Middleware Disaster Recovery 構成です。対称トポロジでは、本番サイトとスタンバイ・サイトには、同数のホスト、ロード・バランサ、インスタンスおよびアプリケーションがあります。両方のサイトに対して同じポートが使用されます。システムは同一に構成され、アプリケーションは同じデータにアクセスします。

タイトル・バー Strategic Finance 名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスが表示されるバーです。

タイム・イベント ジョブ実行のトリガーです。

タイム・スケール 指定された間隔別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示するスケールです。

タイムライン・ビューア 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための FDM の機能です。

多次元データベース 3 つ以上の次元でデータを整理、格納、および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。「リレーショナル・データベース」と対比してください。

タスクフロー ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

タスクフロー・インスタンス タスクフローの単一のインスタンスです。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

タスクフロー管理システム タスクフローを定義および作成し、その実行を管理するシステムです。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやり取り、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

タスクフロー参加者 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

タスクフロー定義 タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスです。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成されます。タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

タスク・リスト 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

タブ Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。

ダブル MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。例: (Jan); (Jan, Sales); ([Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual])。

単項演算子 アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。

代替階層 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

ダッシュボード 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

置換 データ・ロードのオプションの 1 つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

チャート・テンプレート ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

抽出コマンド Essbase レポート作成コマンドの 1 つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

調査 「ドリルスルー」を参照してください。

調整 「仕訳」を参照してください。

調整勘定科目 会社間勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

直接レート 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間/シナリオのレートを入力します。

通貨換算 データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1 米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1*0.923702)。変換後のユーロの額は 0.92 になります。

通貨の上書き 任意の入力期間に対して選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/アイテムとして該当期間の値の入力を有効にする機能です。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

通貨パーティション アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

通常仕訳 特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。通常仕訳は貸借一致、エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

定義済ドリル・パス データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

適応状態 Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

テキスト・メジャー Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。「型付きメジャー」、「テキスト・リスト」、および「導出テキスト・メジャー」も参照してください。

デフォルト通貨単位 データの単位スケールです。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して 10 を入力すると、この単位は 10,000 と解釈されます。

データ関数 平均値、最大値、件数、およびデータのグループを集計するその他の統計など、集約値を計算する関数です。

データ・キャッシュ 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

データ・セル 「セル」を参照してください。

データ値 「セル」を参照してください。

「データなし」ステータス 集計ステータスの 1 つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

データ・ファイル・キャッシュ 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

データ・フォーム Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

データベース接続 データソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。

データ・マイニング Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

データ・モデル データベース・テーブルのサブセットを示します。

データ・ロック 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぐ機能です。

データ・ロード位置 FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が 1 つあります。

データ・ロードのルール テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を決定する一連の基準です。

透過パーティション ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

透過ログイン ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせるプロセスです。

統合 Shared Services を使用して Oracle Hyperion アプリケーションでデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付けおよびスケジュールが決定されます。

統制グループ 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されるグループです。サーベンス・オクスリ(Sarbanes-Oxley)法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

時系列レポート作成 カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

トップ・ラベルとサイド・ラベル 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

トラフィック・ライト 2つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

トリガー ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbaseの機能の1つです。基準に一致すると、Essbaseはユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

トレーサビリティ メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえばEssbase Studioの場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソース要素まで追跡できます。「系列」も参照してください。

トレース・レベル ログ・ファイルに取り込まれた詳細のレベルです。

トレース割当て Profitabilityの機能の1つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

トークン 外部認証システム上の1つの有効なユーザーまたはグループの暗号化されたIDです。

トースト・メッセージ 画面右下の隅に現れたり消えたりするメッセージです。

同期 Shared Servicesとアプリケーション・モデルの同期です。

同期済 モデルの最新バージョンがアプリケーションとShared Servicesの両方に存在する状態を指します。「モデル」も参照してください。

導出テキスト・メジャー Essbase Studioで、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、販売高メジャーに基づく導出テキスト・メジャー「販売実績インデックス」は、「高」、「中」、および「低」の値で構成できます。対応する売上が該当する範囲に応じてHigh、Medium、およびLowが表示されるように定義されます。「テキスト・メジャー」も参照してください。

動的階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

動的計算 Essbaseで、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。

動的計算および保管メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときにのみ計算が行われるメンバーです。計算された値はデータベースに保管されます。2回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

動的計算メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみEssbaseによって計算されるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

動的参照 データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。

動的時系列 ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

動的ビュー勘定科目 勘定科目の1つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

動的メンバー・リスト システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照されるとき、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

動的レポート レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

ドメイン データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

ドライバ Profitability and Cost Managementでは、ドライバを利用する複数ソース間の数学的關係、およびこれらのソースがコストや収益を割り当てる宛先を示す割当て方法です。Business Modelingの場合は、「コスト・ドライバ」および「アクティビティ・ドライバ」も参照してください。

ドリルスルー あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

ドリルダウン 次元の階層を使用してクエリー結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパーспекティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

名前付きセット MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリー内で複数回参照することが可能です。

入力データ 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

認証 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

認証サービス 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

ネイティブ認証 サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

ネスト列見出し 複数の次元からのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列見出しはネスト列です。ネスト列見出しでは、見出しの一番上の行の Q1 (Year 次元)が、見出しの一番下の行の Actual および Budget (Scenario 次元)で修飾されます。

ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML) Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

ハイパーリンク ファイル、Web ページ、またはイントラネット HTML ページへのリンクです。

ハイブリッド分析 リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

反復タイム・イベント ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

反復テンプレート 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

汎用ジョブ SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

凡例ボックス 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

ハードウェア・クラスタ ネットワーク・サービス(たとえば IP アドレス)やアプリケーション・サービス(データベースや Web サーバーなど)のシングル・ビューを、これらのサービスのクライアントに提供するコンピュータの集合です。ハードウェア・クラスタの各ノードは、独自のプロセスを実行するスタンドアロン・サーバーです。これらのプロセスは互いに通信し、連携してアプリケーション、システム・リソース、データをユーザーに提供する 1 つに見えるシステムを形成します。

バックアップ アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

バッチ POV ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

バッチ計算 データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

バッチ処理モード サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用する方法です。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行したりできます。

バッチ・ファイル 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

バッチ・ローダー 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

バージョン データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

パターン照合 条件として入力されるアイテムの一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(*)などのワイルド・カード値で表すことができます。たとえば、「Find all instances of apple」では apple が戻されるのに対して、「Find all instances of apple*」では apple、applesauce、applecranberry などが戻されます。

パフォーマンス・インディケータ ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルトのパフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

パブリック・ジョブ・パラメータ 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

パブリック反復タイム・イベント 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

パレット JASC に準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う 16 色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用可能です。

パースペクティブ スコアボードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。

パーティション化 データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

パーティション領域 データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの 1 つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2 つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に 18 個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する 18 個のセルが含まれている必要があります。

非アクティブ・グループ 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

非アクティブ・ステータス エンティティの当期の連結が非アクティブになっていることを示すステータスです。

非アクティブ・ユーザー 管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。

非次元モデル Shared Services のモデル・タイプの 1 つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

非対称トポロジ 本番サイトおよびスタンバイ・サイトの層全体で異なる Oracle Fusion Middleware Disaster Recovery 構成です。たとえば、非対称トポロジには、本番サイトより少ないホストおよびインスタンスを持つスタンバイ・サイトを含めることができます。

日付メジャー Essbase で、メジャーが示されている次元で日付というタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立ちます。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。「型付きメジャー」も参照してください。

表示タイプ リポジトリに保存された 3 種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

標準仕訳テンプレート 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

標準次元 属性次元以外の次元です。

ビジネス・プロセス 集散的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

ビジネス・ルール 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ビジュアル・キュー 特定のデータ値のタイプを強調表示する、フォントや色などフォーマットの設定されたスタイル。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかです。

ビュー データを年次累計または期別に表示します。

ピボット 取得したデータのパーспекティブを変更します。Essbaseでは、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。

ピン ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは動的です。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやトラフィック・ライトの色を変更できます。

ピンボード 3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの1つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはトラフィック・ライトを定義する必要があります。

ファイルの区切り文字 データソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

ファクト・テーブル スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キー、および次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

フィルタ データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

フェイルオーバー プライマリ・データベース、サーバーまたはネットワークに障害が発生するか、これらがシャットダウンする場合に、冗長性のあるスタンバイ・データベース、サーバーまたはネットワークに自動的に切り替える機能です。フェイルオーバー用にクラスタリングされているシステムは、高可用性、サーバーの冗長性を利用したフォルト・トレランス、および共有ディスクなどのフォルト・トレラント・ハードウェアを提供します。

フォーマット文字列 1) Essbaseでは、セルの値の表示を変換する方法です。2) Data Relationship Managementでは、プロパティ値を返すフォーマットを示す、フォーマットまたはフォーマット済日付の派生プロパティのパラメータです。

復元 データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

複製パーティション パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトで保管されているデータのコピーに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

負債勘定科目 一定時点における会社の負債残高を保管する勘定科目の種別です。例: 未払費用、買掛金勘定、長期借入金。

フッター レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

フリーフォーム・グリッド 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

フリーフォーム・レポート作成 ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

フレーム デスクトップ上の領域です。次に示す2つの主要な領域があります: ナビゲーション・フレームおよびワークスペース・フレーム。

フロー勘定科目 期別と年次累計の符号なしの値を保管する勘定科目です。

ブック 1)Financial Reporting においては、類似するドキュメントのグループを含むコンテナを意味します。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります。2)Data

Relationship Management においては、グループとして一緒に実行可能なエクスポートの集合を意味します。エクスポートの結果は、まとめることも個別に出力することも可能です。

ブックの POV ブックが実行される次元のメンバーです。

ブックマーク ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークのタイプには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークがあります。

ブロック プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

ブロックされた勘定科目 手動で入力する必要があるために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。

ブロック・ストレージ・データベース 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

ブロードキャスト・メッセージ Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が送信する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどの詳細な情報が表示されます。

分離レベル データベース操作のロックとコミットの動作(コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス)を決定する Essbase Kernel の設定です。

プライマリ・メジャー 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

プランナ データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の有効化、および Smart View の使用が可能なユーザーです。プランナは、大多数のユーザーから構成されます。

プランニング・ユニット シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。

プレゼンテーション Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並べ替え、配布、および確認を行うことができます。リポトリ内のレポートを参照するポインタを含みます。

プロキシ・サーバー セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

プロジェクト 実装でグループ化された Oracle Hyperion 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

プロセス監視レポート FDM データ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手順のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられます。時間データがロードされた場所を判断するために使用できます。

プロット領域 X 軸、Y 軸、および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

プロビジョニング ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権限を付与するプロセスです。

並列エクスポート Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

並列計算 計算オプションの1つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

並列データ・ロード Essbase で、複数プロセスのスレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

変換 1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーティファクトを変換するプロセスです。2)データ・マイニングでは、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更することです。

変換先通貨 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

変換元通貨 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

「変更済」ステータス 集計ステータスの1つです。エンティティのデータが変更されたことを示します。

別名テーブル メンバーの代替名を含むテーブルです。

ページ グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。

ページ・ファイル Essbase のデータ・ファイルです。

ページ見出し レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

ページ・メンバー ページ軸を決定するメンバーです。

保管階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用される用語です。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、一定の制限があります。たとえば、式を含むことはできません。

ホスト アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

ホスト・プロパティ ホストに関するプロパティです。ホストに複数の Oracle EPM ホームが含まれる場合は、いずれかの Oracle EPM ホームに関するプロパティとなります。

保存された仮定 ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

マイ Workspace ページ ユーザーにより作成されるカスタマイズ可能な Workspace ページです。リポジトリを移動せずに、1つの場所から簡単にアクセスできるように、特別にマークされます。

マイニング属性 データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

マスター・データ・モデル 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

マップ・ナビゲータ 戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

マップ・ファイル 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を保管するファイルです。マップ・ファイルには異なる拡張子があります(データ送信用は.mps、データ取得用は.mpr)。

マルチロード 複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

マージ データ・ロード・オプションの1つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

密次元 ブロック・ストレージ・データベースでは、次元メンバーのすべての組合せについてデータを含んでいる可能性があります。たとえば、時間次元はしばしば密ですが、これは時間次元がすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるからです。「疎次元」と対比してください。

ミドルウェア・ホーム Oracle WebLogic Server ホーム、および EPM Oracle ホームやその他の Oracle ホームを含むディレクトリです。ミドルウェア・ホームは、ローカル・ファイル・システム、または NFS を介してアクセス可能なりモート共有ディスク上に配置できます。

ミニスキーマ データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

ミニレポート レポートのコンポーネントの1つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の1つまたは複数のクエリーを含みます。各レポートには、1つ以上のミニレポートを含めることができます。

耳折れ チャートのヘッダー領域の右上にある、折り曲げられたページの角。

メジャー OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。「ファクト・テーブル」も参照してください。

メタアウトライン Essbase Integration Services における、OLAP モデルから Essbase アウトラインを作成するための構造とルールを含んでいるテンプレートです。

メタデータ データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

メタデータ・セキュリティ ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

メタデータのサンプリング ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

メタデータ要素 データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために保管され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。

メンバー 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

メンバー選択レポート・コマンド 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

メンバー専用レポート・コマンド レポート・ライター・フォーマット・コマンドの1つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

メンバー・リスト 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

メンバー・ロード Essbase Integration Services における、次元およびメンバーを(データなしに)Essbase アウトラインに追加するプロセスです。

目標 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

持株会社 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

モデル 1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという2つの主要なタイプがあります。3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

役割 リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

ユーザー定義属性(UDA) アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明する属性です。指定されて関連付けられた UDA を含むメンバーのリストを戻す際に使用できます。

ユーザー定義メンバー・リスト ユーザー定義による、特定の次元に含まれるメンバーの静的なセットです。

ユーザー・ディレクトリ ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。一般的なユーザー・ディレクトリには、Oracle Internet Directory (OID)、Microsoft Active Directory (MSAD)および Sun Java System Directory Server があります。

ユーザー変数 ユーザーのメンバー選択に基づいてデータ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示する変数です。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

要約チャート 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。

ライトバック 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

ライフサイクル管理 製品環境で、アプリケーション、リポジトリまたは個別のアーティファクトを移行するプロセスです。

ライン・アイテムの詳細 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。

リソース システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

リポジトリ ビューおよびクエリーに使用するメタデータ、フォーマット、および注釈の情報の格納場所です。

領域 メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

履歴平均 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

リレーショナル・データベース 関連する 2 次元テーブルにデータを保管するデータベースです。「多次元データベース」と対比してください。

リンク (1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

リンク条件 タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

リンク・データ・モデル リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

リンク・パーティション データ・セルを使用して 2 つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新しいシートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

リンク・レポート・オブジェクト(LRO) セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。「ローカル・レポート・オブジェクト」と対比してください。

隣接する四角形 Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さおよび幅を表すピクセル、または 1 ページ当たりの行数により指定されます。

レイアウト領域 コンテンツを配置可能な Workspace ページの領域です。

例外 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

レイヤー 1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

レコード データベースで、1 つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。

列 Data Relationship Management においては、インポート・ソース、またはクエリー、比較、検証、エクスポートの結果に関連付けられたデータのフィールドを意味します。

レベル 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

レベル0のブロック 疎のレベル0メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

レベル0のメンバー 子の存在しないメンバーです。

レポート・エクストラクタ スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

レポート・オブジェクト レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

レポート・スクリプト 1つまたは複数の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

レポートの通貨 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

レポート・ビューア レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

連結 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この連結は Year になります。

連結比率 親に連結された子の値の割合です。

連結ファイル(*.cns) 連結プロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結の定義や変更を行うことも可能です。

連結ファイル(親) 事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みます。

ログ・アナライザ Essbase ログのフィルタ、検索、および分析を行うための Administration Services の機能です。

ロケーション別名 データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、または API を使用して設定されます。

ロケール コンピュータで使用される言語、通貨および日付のフォーマット、データのソート順、および文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。「エンコード方式」、「ESSLANG」も参照してください。

ロケール・ヘッダー・レコード スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

ロック済 ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

「ロック済」ステータス 集計ステータスの1つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

ロック済データ・モデル ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

論理 Web アプリケーション 内部ホスト名、ポートおよび Web アプリケーションのコンテキストの識別に使用される別名付きの参照です。クラスタ化環境または高可用性環境では、分散コンポーネントに対して単一の内部参照を確立する別名です。EPM System において、クラスタ化されていない論理 Web アプリケーションは、その Web アプリケーションを実行している物理ホストにデフォルトで設定されます。

論理グループ FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される1つ以上の論理勘定です。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。

ローカル結果 データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカルの結果を要求すると、カタログに表示されます。

ローカル・レポート・オブジェクト Explorer で Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。「リンク・レポート・オブジェクト」と対比してください。

ロード・バランサ クラスタ内の個々のアプリケーションに要求を分散し、システムへの唯一のエントリ・ポイントとなるハードウェアまたはソフトウェアです。

ロード・バランシング 複数のサーバー・グループに要求を分散すること。これによって、エンド・ユーザーのパフォーマンスが最適化されます。

ロールアップ 「連結」を参照してください。

ワイルド・カード 検索文字列で単一の文字(?)または文字グループ(*)を示す文字です。

割当て 割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

ワークフロー FDM でデータを最初から最後まで処理するために必要なステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

ワークブック 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。

